

第3回羽島市幼保小連携推進協議会

日 時	令和5年6月27日(火) 15時00分～16時30分
場 所	羽島市役所本庁舎 3階 302会議室
出席者	<p><b>【委員】</b> 西川委員長、安藤(理)副委員長、高砂委員、安藤(賢)委員、吉田委員 木下委員</p> <p><b>【事務局】</b> (教育委員会) 森教育長、今井田事務局長、高橋学校教育課長、中村同課幼児教育係長、 豊島同課教員研修・学校支援専門員</p> <p>(健幸福祉部) 横山子育て・健幸担当部長、熊崎次長兼子育て・健幸課長 小森同課幼保支援係長</p>
内 容	<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>事務局より資料を用いて説明を行った後、議事(1)(2)(3)について意見交流</p> <p>(1) 第1回幼保小連携に関わる調査の報告について</p> <p><b>【委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校職員は「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」について主体的に学べる組織づくりや研修が必要である。</li> <li>・小学校側から見て、「自立心」や「自然とのかかわり」について高まりを感じる。「言葉による伝え合い」や「豊かな感性や表現」には課題を感じている。</li> </ul> <p><b>【委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートで出てきた課題について、どうしていくか具体的に対策を立てていくことが大切である。</li> <li>・幼保小連携の分掌が決まっていなくても、各園で担当は明確になっているはずなので、結果を一面的にとらえず多面的に分析する必要がある。</li> </ul> <p>(2)令和5年度の取組状況について</p> <p><b>【委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各小学校区における幼保小の連絡会は年1回では足りないと感じている。1月頃、1年間の成長や就学に向けた意見交換をしたい。</li> </ul> <p><b>【委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校区の連絡会や参観は今までもやっていたが、今後の方向性はどう示し</li> </ul>

ていくのか。朝の会から授業まで参観すると、児童の実態がよく見える。

**【委員】**

- ・正木小学校区の幼保小連携会議は、就学に向けた意見交換が行われ充実していたと聞いている。今後、中身をより充実させていくことが大切である。
- ・授業の参観では、絵本から濁点を探す授業があった。園での遊びから、自覚的な学びにつながるものだったのではないか。

**【委員】**

- ・保護者からすると、小学校区の先生方が相互に意見を交換して理解しあっていることが安心感につながる。

**【委員】**

- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点とした連携になっていないことは課題である。小学校側から、「遊びの中で、どんな文字を使った経験していましたか」等の質問があるとよいのではないか。
- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が書かれたシート等を持って、子供の様子を見て共通理解していくとよい。
- ・保護者も「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」という視点で子供の育ちを捉えられるような羽島市になっていくとよい。

**【事務局】**

- ・小学校区における連携会議では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が視点となっていないのが現状である。市の幼保小連携担当者会で、市としての方向を示しながら、今後の連携について考える機会としたい。

**【委員】**

- ・小学校区の連携については、目的をはっきりさせることが大切である。他の自治体の事例をもってきて紹介していくとよい。

(3)幼保小連携に関わる各小学校・園への調査について

**【委員】**

- ・園では、環境との出会いを通して遊びを発展していき、自ずと学びが成り立っていく。一方、小学校が学んでいると自覚するのが特徴である。「遊びの中での気付き」から「自覚的な学び」にどうつなげていくかが大切である。

**【委員】**

- ・幼児期は遊ぶというねらいを通してたくさんの経験を通して学んでいく。小学校は、どのようにしてねらいに向けて指導していくことで自覚的な学びにつながる。そのあたりが、グラデーションになるのが架け橋期である。

**【委員】**

- ・園の参観の際、夢中になって遊んでいる幼児の姿を視るものさしが必要である。その積み重ねから、小学校区で何が弱いかが見えてくる。その上で、架け橋期のカリキュラムを考えていくことが大切である。

**【委員】**

- ・期待する子供像が「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」をもとに貫かれるとよい。現状は、スムーズな接続になるよう交流することに留まっている。

**【委員】**

- ・期待する子供像は、園や小学校参観での子供の事実から、保護者も巻き込んで「この力が弱い」というものが集まっていくと見えてくるのではないか。

**【事務局】**

- ・小学校は保護者も教員もできることを期待するため、生活の様式を小学校に合わせていく。保護者の方に、園での学びがどのように生かされているのか言えたら本物ではないかと考える。

**【委員】**

- ・小学校には、複数の園から児童が集まってくる。各園で教育・保育に特徴がある。共通の視点で見ていくことで、子供の現状を話し合う土台ができる。

**【委員】**

- ・カリキュラム開発方針の遊びや学びのプロセスは削除してよいのではないか。何を書くべきか明確でない。

**【委員】**

- ・地域の実情に応じて考えなければいけないところと、どの自治体でも大切なことがある。他の自治体の動向も見ながら進めていくとよい。

**【委員】**

- ・共通の視点については、他の自治体を参考にして検討していく必要がある。
- ・実践を記録していくものがあると、PDCA サイクルを循環させるときに有効である。開発方針を作って終わりにしないことが必要である。

**【事務局】**

- ・実践を評価するものを作成していく方向で検討したい。
- ・進捗については、校長会、担当者会等で示しながらできることからやっていくことが大切だと考えている。